

ある人に、子どもが生まれました。名前を何と付けようかと考えたあげく、短い名前がよびやすくいいなと思いました。そこで、「ちよつと」という名前にしました。

ところが、ちよつとは、ちよつとして死んでしまいました。あんまり名前が短かったから早く死んだんだと、その人は思いました。

しばらくして、また子どもが生まれました。こんどは思い切って長い名前を付けることにしました。そうすれば、きっと長生きするにちがいないと考えたのです。そこで、こんな名前を付けました。

いつちようぎりにちようぎりちようないちようざぶろう、ごろごろやまのごへいさく、あつちやまこつちやま、とりのとつさかたてえぼしとんからびよう

ある日のこと、この子が庭で遊んでいたら、あやまって井戸に落っこちました。いっしょにいた子が助けようと思って、近所へはしごを借りに行きました。そして、

「いつちようぎりにちようぎりちようないちようざぶろう、ごろごろやまのごへいさく、あつちやまこつちやま、とりのとつさかたてえぼしとんからびようが、井戸に落ちたから、はしごを貸しておくれ」といいました。するとそこのおばあさんが、

「え？何ていったんだ」とききました。

「あのな、いつちようぎりにちようぎりちようないちようざぶろう、ごろごろやまのごへいさく、あつちやまこつちやま、とりのとつさかたてえぼしとんからびようが、井戸に落ちたから、はしごを貸しておくれ」と、何度もいって、やつとはしごを借りて来ました。けれどもそのときにはもう子どもは水を飲んで死んでいましたとさ。

おしまい。